

畜産クラスター事業

について

実施年度	市町名	整備内容	ページ番号
平成 26 年度	観音寺市	洗卵選別包装機	1
平成 27,28 年度	高松市	搾乳牛舎、搾乳施設	3
平成 28 年度	高松市 観音寺市	繁殖・育成牛舎等	6
平成 28 年度	綾川町	オリーブ夢豚肥育豚舎	7
平成 28 年度	まんのう町	家畜排泄物処理施設補改修	8
平成 28 年度	さぬき市	搾乳施設	10

【事業内容】

畜産農家を始めとする地域の関係者が連携し、作業の外部化や省力化、規模拡大等により、体質強化を進めるため、地域で策定する畜産クラスター計画に位置づけられた中心的な経営体等が行う施設整備や機械導入などの競争力強化に向けた生産基盤の構築や生産性向上等に向けた取組の実証調査等を支援。

【支援メニュー】

- ・ 地域的な規模拡大や分業体制の構築等、重点に推進すべき取組（重点化メニュー）に取り組む場合、実証調査、施設整備、機械導入等を一体的に支援
- ・ 併せて、効果の早期発現、普及を図るため、支援を拡充

【交付率】

施設整備、機械導入事業については 1 / 2 以内

平成26年度畜産競争力強化対策緊急整備事業実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
観音寺市	観音寺市	J A香川県フードサービス畜産クラスター 協議会 (取組主体：株式会社 A)	平成26～27年度

事業計画の概要

(課題)

養鶏産業は県内の畜産物総産出額の6割(185億円)を占める重要産業であり、そのうち7割弱を鶏卵が占めている。また、農家の高齢化等により飼養戸数は年々減少しており、ここ10年で半減しているものの、1戸当たりの飼養羽数は、ここ10年で倍増しているところである。今後も大規模化の流れは続くと思込まれる中で、鶏卵の洗卵、選別、包装等を行う株式会社Aにおいては、洗卵選別包装機の処理能力が不足しており、不足分については職員の残業で対応しているため、生産コストが高騰している。また、処理能力の不足は、生産者における増羽にも影響を与えており、このままでは生産者の望む規模拡大が行えない可能性もある。

コストの低減及び生産者における増羽・生産量の増加は、県内においても、全国的にも喫緊の課題であることから、処理能力の高い洗卵選別包装機を導入し、それらに取り組む。

(事業内容)

- ・株式会社Aが、生産者18農場からの鶏卵を受け入れ、洗卵、選別、包装等を行う中で、処理能力の高い洗卵選別包装機を導入することでコストの低減を図る。
- ・生産者においては、増羽を行い鶏卵の生産量の増加を図る。

施設整備計画

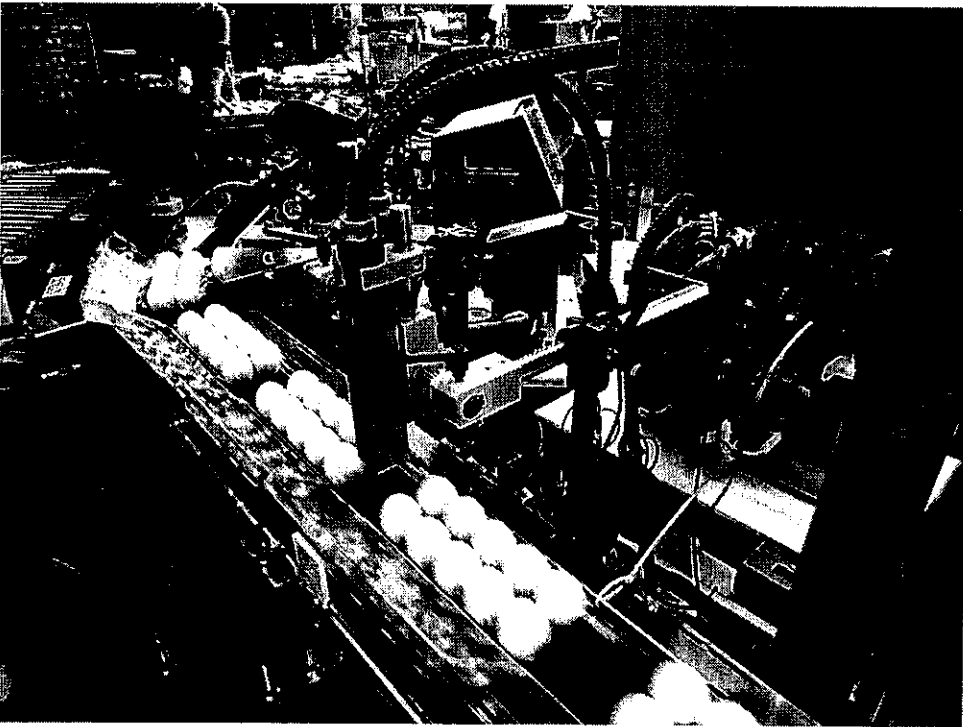
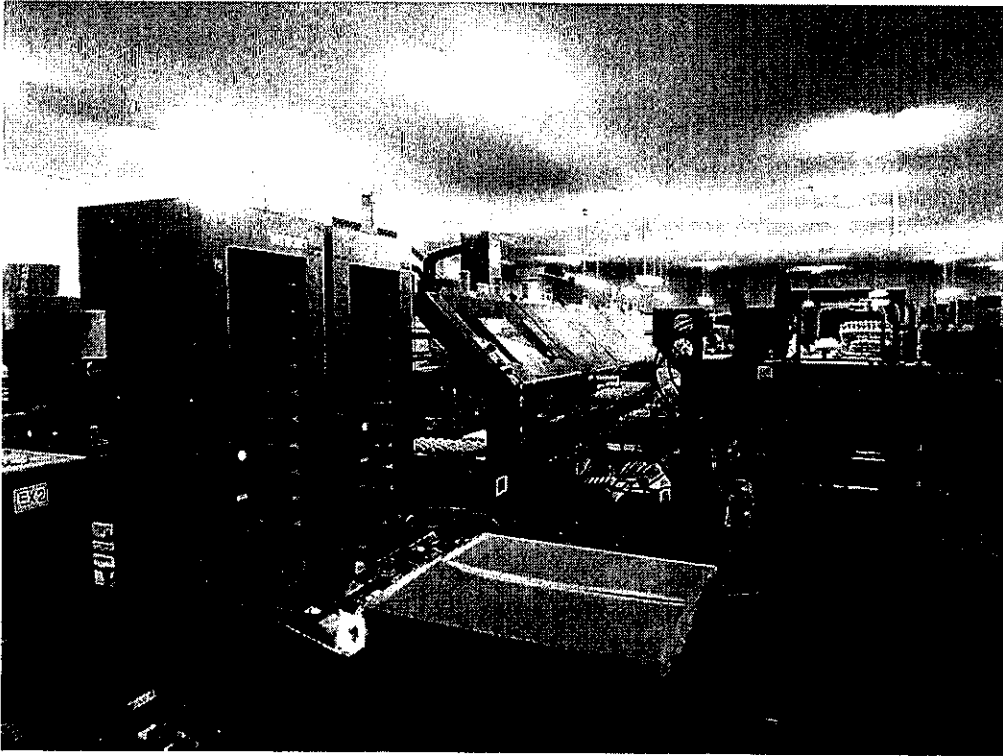
※添付書類：写真

整備内容	受益戸数 (戸)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
洗卵選別包装機	6 (18農場)	75,000,000	37,500,000	洗卵選別包装機 1台

期待される効果の概要

項目	26年度 (現状値)	28年度 (実績値)	28年度 (目標値)	概要 (目標達成率※)
処理コストの低減	600万円/年	330万円/年	400万円/年	時間外労務費 45%減 (135%)
鶏卵生産量増	9,000t/年	9,650t/年	9,400t/年	鶏卵生産実績 7%増 (162.5%)
高付加価値卵の販売増	480t/年	600t/年	530t	高付加価値卵の販売量 25%増 (240%)
養鶏場での増羽	50万羽/年	56万羽/年	52万羽/年	飼養実績 12%増 (300%)

※目標達成率 = (実績値 - 現状値) / (目標値 - 現状値) × 100



平成27、28年度畜産競争力強化対策整備事業実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
高松市	高松市	香川地域高品質生乳生産協議会 (取組主体：有限会社B)	平成27～28、28～29年 度

事業計画の概要

(課題)

県内の酪農業は産出額約40億円の重要産業であり、生乳は、県民の健康保全の観点からも重要な品目である。しかしながら農家の高齢化等により飼養戸数は年々減少しており、ここ10年で半減、飼養頭数は3割減となっている。農家戸数の減少は今後も続く見込みであり、飼養頭数維持のためには、1戸当たりの飼養頭数の増加が絶対条件となる。このような中、全国的な初妊牛価格の高騰や飼料の高止まりもあり、経営が圧迫されていることから、酪農家が牛舎や搾乳施設の新設等に取り組むことは困難となっている。また、畜産においては堆肥の処理の円滑化が必須となっていることから、近隣の耕種農家との連携も課題の一つである。

(事業内容)

- ・有限会社Bが、搾乳牛の牛舎および搾乳施設を新設し、飼養頭数の拡大を図るとともに、生乳の品質向上に取り組む。
- ・また、同社が6次産業として経営するジェラート店における販売額を増加させる。
- ・良質堆肥を生産し、近隣耕種農家へ供給する。

施設整備計画

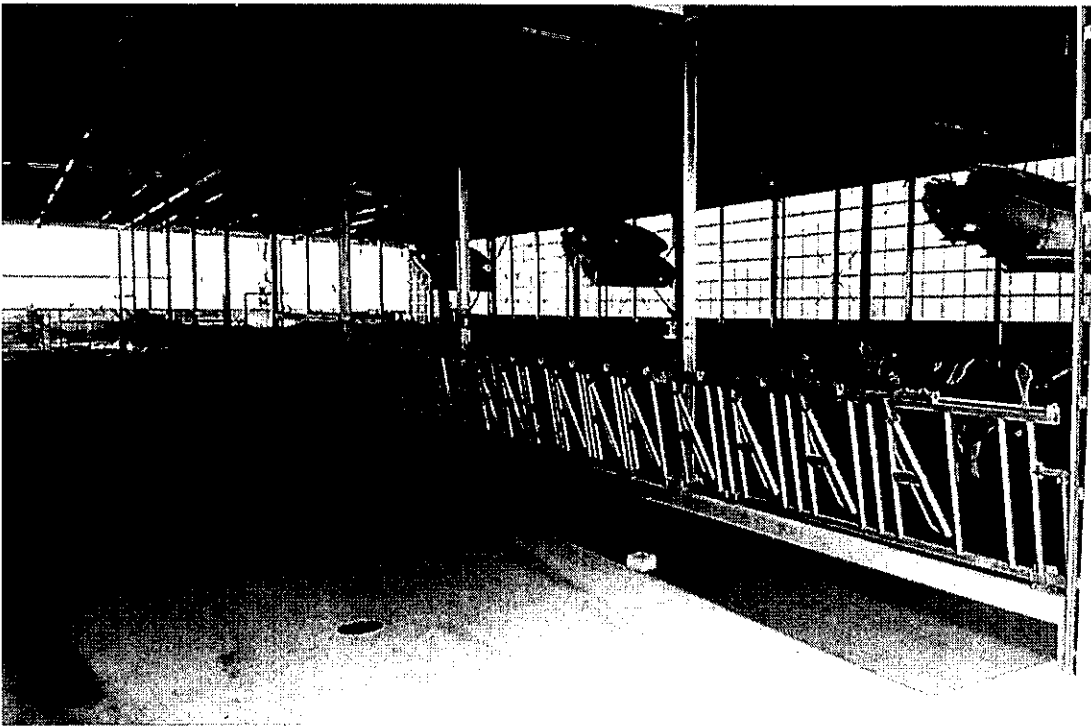
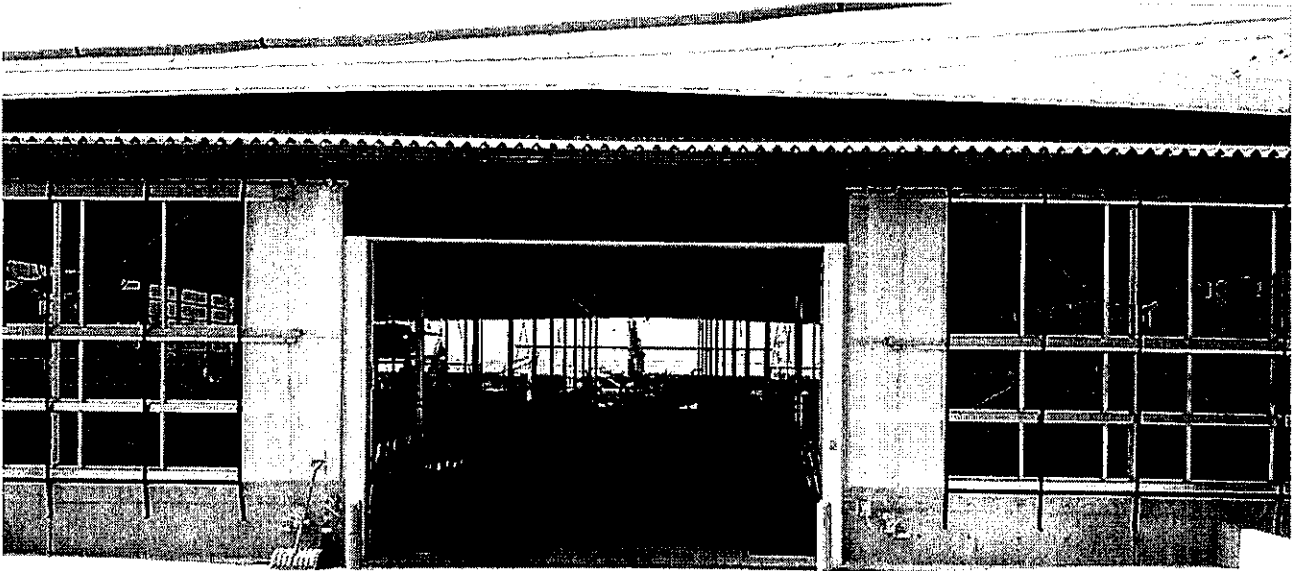
※添付書類：写真（搾乳施設は着工前のため写真なし）

整備内容	施設面積	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
搾乳牛舎 (H27)	3124 m ²	215,610,880	99,819,851	搾乳牛舎 1棟
搾乳施設 (H28)	491.4 m ²	170,725,752	79,039,700	搾乳施設 1棟

期待される効果の概要

項目	26年度 (現状値)	28年度 (実績)	32年度 (目標値)	概要
飼養頭数の増加	120頭	125頭	250頭	(目標) 108%増 (実績) 4%増
生乳生産量の増加	1012t	1130t	2375t	(目標) 135%増 (実績) 12%増
体細胞数定期検査異常値割合の減少	11/108	5/108	4/108	(目標) 63%削減 (実績) 55%削減
乳質ペナルティーの回数の減少	12/360	6/360	5/360	(目標) 58%削減 (実績) 50%削減
WCS作付け面積	0a	1100a	1200a	(目標達成率) 92%

国産飼料作物利用	0 t	282 t	300 t	(目標達成率) 94%
堆肥生産量	2000 t	2000 t	3500 t	(目標) 75%増加 (実績) 0%削減
堆肥利用農家	50 戸	50 戸	70 戸	(目標) 40%増加 (実績) 0%
搾乳機器	6 頭	6 頭	10 頭	(目標) 97%増加 (実績) 0%削減
搾乳時間	4~5 時間	4~5 時間	2 時間	(目標) 50~60%削減 (実績) 0%削減



平成28年度畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（施設整備事業）の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
高松市	高松市牟礼町	C株式会社	平成28年度
観音寺市	観音寺市	D株式会社	
観音寺市	観音寺市	E農場	

事業計画の概要

（課題）

県内の肉用牛経営は産出額38億円の重要産業であり、近年では、県内ブランドである「オリーブ牛」がその品質について国内のみならず海外でも高く評価されている。ここ10年の状況をみると農家の高齢化等により飼養戸数は4割減となっているが、飼養頭数については、農家の大規模化により大きな減少はない。しかしながら、今後も農家の減少は続く見込みであるとともに、全国的な子牛価格の高騰や飼料の高止まり、TPPの影響による海外産の安い牛肉との競合への不安等、経営状況は厳しくなることが懸念される。

これらに対抗するためにも、県は「オリーブ牛」の更なるブランド化・高付加価値化に尽力するとともに、生産者においては、1戸当たりの飼養頭数を増加することで、オリーブ牛の生産頭数を確保することが必要である。

（事業内容）

以下の計画通り、C株式会社が繁殖・育成牛舎、哺育牛舎を、D株式会社が繁殖牛舎、E農場が肥育牛舎を整備し、オリーブ牛生産頭数の増加を目指す。平成32年度には県内全域でオリーブ牛出荷頭数3,000頭を目標とする。

施設整備計画

整備内容	施設面積 (㎡)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
①繁殖・育成牛舎、哺育牛舎	①576㎡×3棟 ①684㎡×2棟 ①180㎡×3棟	①116,212,320	53,802,000	①C株式会社： 繁殖・育成牛舎、哺育牛舎、 おがくず保管庫
②繁殖牛舎	②1,512㎡	②73,537,200	34,045,000	②D株式会社：繁殖牛舎
③肥育牛舎	③500㎡	③22,045,500	10,206,250	③E農場：肥育牛舎

期待される効果の概要

項目	27年度 (現状値)	32年度 (目標値)	概要
繁殖雌牛の増頭	198頭	410頭	飼養頭数 107%増
オリーブ牛出荷頭数の増	310頭	504頭	出荷頭数 62%増

平成 28 年畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（施設整備事業）の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
綾川町 (綾歌郡)	綾川町 西分地区	有限会社 F	平成 28 年度

事業計画の概要

(課題)

本県では、農業・農村基本計画において、消費者ニーズに即した魅力ある農産物の生産・流通・販売、による農業の成長産業化に向けて、マーケットインの発想による消費者ニーズに即した魅力ある農産物の生産・流通・販売の一体となった取組みを推進し、ブランド力の一層の強化を図り、攻める農業を展開している。

県内では、オリーブ牛の人気の高まりから、オリーブを活用した県産豚肉を期待する消費者サイドの声が高まり、平成 25 年度から、県内の生産者、豚肉流通業者及び研究機関が連携し取組を開始した。

平成 27 年 4 月、県内豚肉生産・流通・販売関係業者、県行政、畜産関係団体から成る「オリーブ豚振興会」を設立し、県内 3 農場が生産を開始し、同年 7 月から「オリーブ夢豚」「オリーブ豚」の販売が開始された。

この新たなブランド豚は、平成 27 年度 6,586 頭生産しているが、評価が高く需要に供給が追いついていない。特に、県内大手スーパーは 139 店全店で取扱いを要望しているが 17 店舗止まりである。また、県内外ホテルや百貨店も短期フェアだけでなく常時取扱を要望しているが、こちらも対応できていない。

(事業内容)

この旺盛な需要の時期を逃さず増頭をすすめるため、平成 28 年度に有限会社 F で肥育舎を整備し、新たに「オリーブ夢豚」の生産を開始し、平成 32 年度には 3,000 頭生産する。県内 4 農場で「オリーブ夢豚」「オリーブ豚」生産頭数を平成 27 年度の 6,586 頭に対し、32 年度には 16,000 頭とする。

施設整備計画

※計画図面を調整中

整備内容	施設面積 (㎡)	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
オリーブ夢豚肥育豚舎	・ 18m×8m×12 棟 =計 1,728 ㎡ ・ 資材置場 288 ㎡ 合計 2,016 ㎡	70,355,520	32,572,000	・ ハウス豚舎 (発酵床 80 頭飼育) 12 棟、資材置場 1 棟 ・ 自動給餌機、ファン、細霧装置等付帯

期待される効果の概要

項目	26年度 (現状値)	27年度 (実績値)		32年度 (目標値)	概要
「オリーブ夢豚」「オリーブ豚」の生産増	0 頭	6,586 頭		16,000 頭	生産頭数を約 2.5 倍増
耕畜連携による堆肥供給農家戸数	260 戸	260 戸		320 戸	堆肥供給農家を約 20% 増

平成28年度畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（施設整備事業）の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
まんのう町	まんのう町	まんのう町畜産クラスター協議会 (取組主体：①有限会社 G、②有限会社 H)	平成28年度

事業計画の概要

(課題)

県内の農業産出額は肉用牛が57億円、乳用牛が45億円であり、さらに肉用牛については「オリーブ牛」等のブランド化、乳用牛は肉用牛の素牛供給に貢献するとともに生乳は県民の健康保全に寄与しているなど県内における重要な産業となっている。

一方で、農家の後継者不足等による飼養戸数の減少や肉用素牛価格の高騰等により、今後の畜産生産基盤の弱体化が懸念される。そのため、農家一戸あたりの飼養頭数の増加や地域内一貫生産による素牛安定供給体制の整備等を進める必要がある。

加えて、畜産業においては堆肥処理の円滑化が必須となっていることから、近隣の耕種農家との連携も課題のひとつである

(事業内容)

- ・まんのう町内の酪農家において、規模拡大や乳質改善、和牛受精卵等を活用した素牛の供給等を行う。
- ・まんのう町内の肉用牛農家において、「オリーブ牛」や「まんのうひまわり牛」の生産拡大を図る。
- ・有限会社 G および有限会社 H において、堆肥舎を整備して飼養頭数増加に伴う牛糞堆肥増加に対応するとともに、高品質な堆肥を効率よく生産する。

施設整備計画

整備内容	仕様・規格等	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
①家畜排泄物 処理施設補改 修	①1軸スクリュ ー式攪拌装置 (1基)	①23,008,320	①10,652,000	①既存堆肥舎に走行レール等を設 置し、攪拌装置を設置
②家畜排泄物 処理施設補改 修	②1軸スクリュ ー式攪拌装 置(2基)	②41,594,040	②19,256,500	②既存堆肥舎に走行レール等を設 置し、攪拌装置を設置

期待される効果の概要

項目	27年度 (現状値)	28年度 (実績)	30年度 (目標)	概要
飼養頭数の増加	500頭	545頭	665頭	搾乳牛頭数 (目標) 33%増加 (実績) 9%増加
飼養頭数の増加	3800頭	3850頭	4000頭	肥育牛頭数 (目標) 5%増加 (実績) 1%増加

飼養頭数の増加	200 頭	290 頭	400 頭	まんのうひまわり牛生産頭数 (目標) 100%増加 (実績) 45%増加
自給飼料利用の拡大	20ha	28.4ha	30ha	飼料作物栽培面積 (目標) 50%増加 (実績) 42%増加
耕畜連携の強化	500 t	1200 t	1500 t	堆肥散布量 (目標) 200%増加 (実績) 140%増加
耕畜連携の強化	13ha	16ha	25ha	ひまわり栽培面積 (目標) 92%増加 (実績) 23%増加
耕畜連携の強化	3,255 千円	4,655 千円	8,850 千円	ひまわり関連商品売上額 (目標) 172%増加 (実績) 43%増加

平成28年度畜産競争力強化対策整備事業実績の概要

市町名	地区名	事業主体	事業実施期間
さぬき市	さぬき市	さぬき市 WCS 活用酪農協議会 (取組主体：I氏)	平成28年度

事業計画の概要

(課題)

県内の生乳生産額は39億円であり、また、生乳は県民の健康保全の観点からも重要な品目である。しかしながら農家の高齢化や後継者不足により飼養戸数は年々減少しており、減少は今後も続く見込みである。このような中、飼養頭数や生乳生産量維持のためには、1戸当たりの飼養頭数の増加がひとつよすがだが、現状では頭数減少分を吸収できるだけの施設や労力が不足している。

また、購入飼料価格の高止まりに対応するため、WCS等の自給飼料自給率を高める必要があるが、専用機械が不足しているため思うように作付け拡大ができていない。

加えて、畜産においては堆肥の処理の円滑化が必須となっていることから、近隣の耕種農家との連携も課題の一つである。

(事業内容)

- ・搾乳作業や堆肥生産の効率化を通じて規模拡大を図るモデル的な酪農経営を育成し、飼養頭数の下支えをするとともに波及効果により地域の酪農家の活性化を図る。
- ・I氏の牧場において、新たなミルクングパーラーを導入することにより適切な飼育管理と労働負担軽減を図る。

施設整備計画

整備内容	仕様・規格	事業費 (円)	交付金 (円)	事業の内容
搾乳施設	10頭ダブル パラレル	45,662,400	21,140,000	搾乳施設 1棟

期待される効果の概要

項目	27年度 (現状値)	28年度 (実績)	32年度 (目標値)	概要
飼養規模の拡大	110頭	200頭	220頭	乳用牛の飼養頭数 (目標) 100%増加 (実績) 82%増加
生乳生産量の増加	3t/日	4t/日	6t/日	生乳生産量 (目標) 100%増加 (実績) 33%増加
搾乳作業に係る労力の軽減	6時間/回	4時間/回	3時間/回	一回あたりの搾乳時間 (目標) 50%削減 (実績) 33%削減
自給飼料利用の拡大	6ha	11.2ha	14ha	稲WCS利用面積 (目標) 133%増加 (実績) 46%増加

自給飼料利用の拡大	3ha	2.8ha	5ha	収穫作業受託面積 (目標) 66%増加 (実績) 6%減少
自給飼料利用の拡大	1.5%	2.3%	1.7%	飼料自給率(十川氏) (目標) 13%増加 (実績) 53%増加